

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

ふえーぬかじ

南ぬ風

2018.10~12

Vol. 49
秋号





2018年3月のジンベエジェット新旧機体交代では、旧機体の「卒業式」も。ラストフライトはジンベエジェット発案者が操縦。機長挨拶も特別編だった。

「ジンベエが空を飛んだら、みんなワクワクするのは」という発想を、沖縄美ら海水族館を管理されている財団へ直接伝えたことから始まり、その後会社として企画を持ちかけて実現しました。地元沖縄への子どもの想いをしっかりとつないでいただけだと感謝しております。

「うちなーの翼」というキャッチフレーズ通り、JTAには沖縄への地元愛があり、沖縄の航空会社として県民に愛されていますよね。ありがとうございます。これからも沖縄のためにがんばります。会社としては、社員一人ひとりの思いも大切にしたいですね。

「話題性も抜群で、沖縄観光全体のイメージアップになりますね。ありがとうございます。沖縄県外の未就学児向けには沖縄の海の生き物を描いてもらう「美ら海図画コンクール」を実施しています。沖縄美ら海水族館の思い出を描く子どもたちが多くて、やはり沖縄県外から訪れる観光客にとって、沖縄美ら海水族館の存在は大きいと感じます。

「これからの沖縄観光についてのお考えをお聞かせください。」入域旅客数や成長率などの数値は好調で、沖縄観光は今後も期待されます。その一方で、数を追うだけではないのかという問題もあります。沖縄の入口と出口を担う航空会社だからこそできる魅力の発信を積極的に行いたいと思います。

「空から見るふるさとにみんな目を輝かせて…子どもたちの笑顔は本当にいいものですよ。」カンヒザクラをイメージしたさくらジンベエとペアで沖縄の魅力発信していただきましたね。さらに2017年10月からは新機材ボーイング737-800型機の新ジンベエジェットが就航し、同年12月には同型機の新さくらジンベエが就航しています。「乗っても楽しめる」をコンセプトに、機内では無料WiFiでオリジナルのVRプログラムを楽しんでいただけます。

「機内ではWiFiを活用した世界初の試みです。ジンベエジェット限定のコンテンツで、お客様のスマホに紙製の折りたたみ式VRグラスを装着してご覧いただけます。機内WiFiを世界初の試みです。ジンベエジェット限定のコンテンツで、お客様のスマホに紙製の折りたたみ式VRグラスを装着してご覧いただけます。

「それは意外なつながりですね！」この「サメ肌のふしぎ展」の期間中、ミニチュア版の木製コックピット「ミニレーター」で遊べるコーナーも出展しました。パイロットが操縦訓練をするフライトシミュレーターを模して整備士たちが手作りしたもので、ジンベエジェットのイラストも入れています。

「それは意外なつながりですね！」この「サメ肌のふしぎ展」の期間中、ミニチュア版の木製コックピット「ミニレーター」で遊べるコーナーも出展しました。パイロットが操縦訓練をするフライトシミュレーターを模して整備士たちが手作りしたもので、ジンベエジェットのイラストも入れています。

想いをつなぐ連携をこれからも

「JTAと財団のコラボで生まれたジンベエジェットも6年目ですね。」

「空から見るふるさとにみんな目を輝かせて…子どもたちの笑顔は本当にいいものですよ。」

「空から見るふるさとにみんな目を輝かせて…子どもたちの笑顔は本当にいいものですよ。」

「空から見るふるさとにみんな目を輝かせて…子どもたちの笑顔は本当にいいものですよ。」



日本トランスオーシャン航空株式会社
代表取締役社長

丸川 潔

KIYOSHI MARUKAWA

文：いのうち

国立大学法人一橋大学経済学部を卒業後、日本航空株式会社に入社。2009年JALスカイサービス株式会社取締役総務部長、2010年株式会社日本航空インターナショナル(現日本航空)執行役員空港本部長、株式会社JALスカイ代表取締役社長を経て2014年より現職。福岡県出身。



観光の入口と出口を担う航空会社だからこそできる魅力の発信を積極的に行いたいと思います。2012年から就航しているジンベエジェットをはじめ、沖縄美ら島財団(以下、財団)との連携プロジェクトも多い日本トランスオーシャン航空株式会社(以下、JTA)。

contents

美ら島をつなぐ人 02
おきなわ暮らしのカレンダー 04
沖縄美ら海水族館で出会える生き物 05
熱帯植物ずかん 06
調査研究 06
普及啓発 08
海洋文化コラム 09
うちなーの手わざ 09
運営管理 10
スポットライトの向こう側 12
財団いんふお 14
編集後記 15
おもろさうしの植物 裏表紙

作品タイトル「泉へ向かうものたちの声を聴く」

沖縄県立博物館・美術館長賞



沖縄県芸術大学大学院 環境造形専攻 絵画専修 小林 実沙紀さん(愛知県出身)

散歩など身近な日常から見える物が作品に織り込まれ形のない光の流れを表現。日本画の画材を存分に活かしながら強度のある高麻紙を使用し、光の流れを表現するために屏風に描くことで、空間を感じることができる。「言葉で伝えるのが苦手なので、絵で私の環境や心境が伝わればと思います。これからも描き続けたいです。」

47号から50号までの1年間、沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科「第29回卒業・修了作品展」にて受賞した4作品が表紙を飾ります。残り1号も学生の素晴らしい作品をお楽しみに！

おきなわ
暮らしの
カレンダー
vol. 2



〔11月1日は、泡盛の日〕

1987年、日本酒造組合中央会は11月1日を「本格焼酎&泡盛の日」に制定した。同会によると、焼酎は毎年8〜9月頃仕込みが始まり、その年の新酒が出るのが11月1日前後というのがその理由。10月は日本中の神様が出雲大社へ集まる「神無月」。11月1日は神様が各地へ戻られるという縁起のいい日だということもある。また、1989年には沖縄県酒造組合が泡盛製造の最盛期に入る11月1日を「いい月、いい日」の語呂合わせにかけて、「泡盛の日」に制定した。

泡盛は亜熱帯気候で発酵が安定している黒麹菌を使うため、年間を通して仕込みが行われる。元来、3年以上の長期熟成された古酒に価値があるという考え方が一般的なため、新酒の時期だという由来にはピンとこない沖縄県民もいるだろう。理屈はさておき、美味しく楽しく飲める機会が増えるのは良いことだと肯定的に捉えるのが「酒ジョーグー(酒上戸)」だろう。



11月1日には沖縄国税事務所と沖縄県の共催によるイベント「琉球泡盛の夕べ」が開催され、関係者が集まって、すぐれた古酒を選出する泡盛鑑評会の授賞式が行われるほか、利き酒コンテストも開催される。さらに沖縄県酒造組合は2017年から11月を「泡盛月間」として設定。沖縄県内外でさまざまな泡盛のPRイベントが開催される。

また、琉球王国時代、首里城には銭蔵と呼ばれる泡盛の貯蔵庫があり、王府は税として集めた泡盛を大切に管理。外交の贈答品や交易品として重宝していた。11月1日はちょうど首里城祭の時期でもあり、銭蔵跡でも泡盛の日にあわせてイベントが開催される予定だ。

ちなみに「泡盛百年古酒元年実行委員会」によって1999年に制定された「古酒の日」は9月4日。この日は沖縄県酒造組合青年部による古酒のふるまい酒や、同組合による古酒の飲み比べイベントなどが開催され、これまた泡盛党にはうれしい日となっている。

(文)いのうえちず



泡盛の新酒は水割りで飲むのが一般的だが、最近は炭酸割りやカクテルも人気。古酒は本来、チブグワーと呼ばれる小さなおちょこで、なめるように味わう。

沖縄 美ら海水族館で
出会える生き物 Vol.9

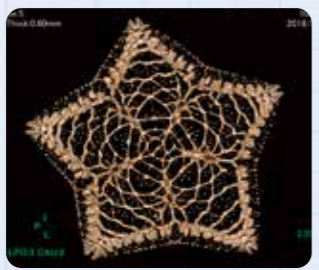


マンジュウヒトデ

和名:マンジュウヒトデ
科名:コブヒトデ科
学名:*Culcita novaeguineae*



胃を反転させたマンジュウヒトデ



マンジュウヒトデのCT画像

マンジュウヒトデはその名の通り、まんじゅうのような球形をしており、最大で直径25cmほどに成長する大型のヒトデです。小笠原諸島・和歌山県以南のインド-西太平洋のサンゴ礁に広く分布しています。サンゴを食べることが知られており、体の下側中央にある口から反転した胃を体外に出し、サンゴの肉の部分を消化吸収します。

ヒトデの間は小さな骨のカケラ「骨片」が組み合わさることで体の形を保っており、マンジュウヒトデのCT画像からは、複雑な網目状の骨片の構造が確認できます。この骨片のつなぎ目は硬さが変わる組織で、硬い時は体全体も硬くなり、柔らかい時は体の形を自由に変えることができます。沖縄美ら海水族館のタッチプールで、形を変えて狭い岩の隙間などに入り込んでいる姿などをぜひご覧ください。

(馬場 雄一郎)

熱帯植物ずかん vol.06 ~バンダ~

科名:ラン科 学名:*Vanda* spp. 英名:*Vanda*



バンダの園芸品種



中庭に咲く露地植えのバンダ

バンダの間は、熱帯アジアを中心にインドからニューギニア、オーストラリア北部に至る広い範囲に数十種が分布し、樹上に着生しています。根は長く、スポンジ状の組織を発達させ水分の確保を行うことから、一般的な植物のように土を必要としません。

また、他の種類には少ない青色をはじめ、赤や黄色など、様々な色の大きな花を咲かせることから、熱帯のランの代表格といえます。

バンダの多くは熱帯性で日本本土では温室がないと栽培が困難ですが、沖縄では、冬でも加温せずに育てることが可能です。その特徴と地の利を活かして、海洋博公園 熱帯ドリームセンター「中庭」では、露地植えしたバンダを展示しています。常夏の太陽に照らされたカラフルなランをぜひご覧ください。

(瀬底 奈々恵)

不妊オスを用いた外来魚ティラピア駆除の試み



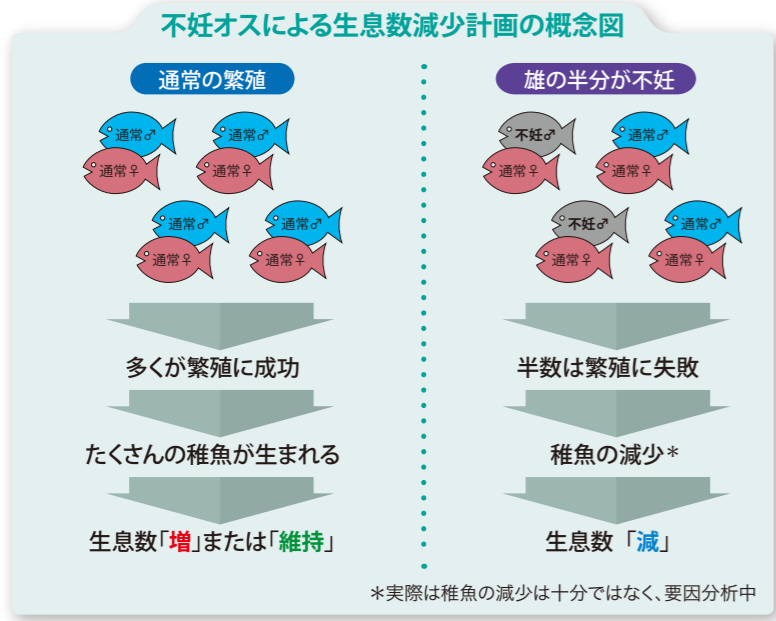
海洋博公園内「水の階段」に隣接する池群。一面にスイレンが植栽されている



稚魚に高温処理を施して不妊化する



民による捕獲駆除



不妊オスはリボンタグで識別した

はじめに

近年、世界各地で外来種による在来生態系への悪影響が問題視されています。沖縄に生息する在来の希少淡水魚は、環境の悪化と外来種の影響により絶滅の危機にさらされています。とりわけ、暖かい沖縄の気候では、餓えなく放流された熱帯魚などが容易に繁殖できるため、帰化した外来種の数は近年になって急増しており、早急な対策が必要な事態となっています。

これら外来種の駆除の方法は、直接的な捕獲に頼ることがほとんどで、多大な努力と費用が必要となります。捕獲駆除以外の効果的な駆除手法の成功例としては、かつて沖縄で農作物に大きな被害をもたらしたウリミバエに対し、人工的に不妊処理を施したオス（不妊オス）を大量に放虫して正常な繁殖を阻害して数を減らし、最終的に根絶できた事例があります。

「ティラピア」の不妊化

アフリカ原産のカワスズメ（以下、通称の「ティラピア」と表記）は、沖縄に生息する外来種の代表格です。養殖の対象魚として持ち

本格的な検証を開始

海洋博公園内にある「水の階段」周辺には、たくさんのスイレンが植栽された池群があり、いつの間にか

込まれたものが野生化し、沖縄のほぼすべての淡水域に侵入して、在来種の生息を脅かしています。2015年、沖縄美ら島財団総合研究センターの研究グループは、水温38℃でティラピアの稚魚を2カ月ほど飼うと、生殖能力を失うことを明らかにしました。この方法は簡便なため、大量に不妊魚を作ることができるうえ、遺伝子操作や化学処理による不妊化に比べ、安全性にも優れています。

今後の課題

この要因を解明するため現在さまざまな実験を行いつつ、継続的なモニタリングと捕獲駆除が続いています。

ティラピアに限らず、外来種はわずか数匹の侵入から数を増やしていったものが多いと考えられます。したがって、完全な駆除には最後の1つがいままで除外する必要があります。多大な労力と費用が必要となえ、完遂できる保証はありません。

今回、実証実験を行った小規模の池で、群集構造を大きく変えるほどの捕獲駆除と不妊オスの放流を行っても減少にはつながらず外来種駆除の難しさがより強調されました。しかし、実証実験が始まってまだ1年半ですので、課題を一つ一つ解決しつつ、効果的な駆除手法に到達するための努力を継続してまいります。（岡慎一郎）

侵入し繁殖したティラピアが大量に生息しています。野生化したティラピアの個体数を減らすために最も重要なことは、不妊オスと野生のメスの出会う確率を上げることです。2016年12月から、この池全域において、罠を用いたティラピアの捕獲駆除を定期的に行い、2018年7月までに、約18,000尾の駆除を行いました。

捕獲駆除によって繁殖に有利な大きなオスの数が少なくなった、2017年6月には、他の池とつながっていない池に、不妊処理を施したティラピアのオスを、約120尾放流しました。産卵期の終わる11月までの間に、繁殖期をむかえた不妊オスは、積極的に繁殖用の縄張りをもち、池全体で約9割の縄張りが、不妊オスとなっていることがわかりました。この結果から、メスが正常なオスと出会う確率を1割まで大きく低下してきたと考えられました。

さらに、この不妊オスの繁殖阻害の効果を検証するため、放流後に生まれた稚魚の数がどのように変化したのかを解析しました。しかし、得られた結果では、不妊オスを放流した池と、放流しなかった池とでは、稚魚の出現状況に違い

美ら島自然学校「ウミガメまつり」初開催!!



ウミガメ観覧会



ウミガメを実際に触って観察する

名護市東海岸に位置する美ら島自然学校(旧名護市立嘉陽小学校)は、目の前に海、背後を山に囲まれた自然豊かな環境にあります。嘉陽小学校時代にウミガメを通じた環境学習が行われていたこともあり、2018年7月22日に、「ウミガメまつり」と題したイベントを初開催しました。

イベント当日は、身近な自然や地域の魅力を紹介することを目的に、ウミガメやホシスナ等の身近な生き物を題材にしたミニ講座や観察会、身近で採取できる植物を用いた草玩具作りなどの工作教室を実施しました。参加された方々には、ウミガメの形態を観察した後に、ミニ講座でウミガメに関する豆知識を学ぶなど、各プログラムをうまく組み合わせ楽しんでいただけました。

また、活魚車での生物展示「小さな水族館 海の生き物」では、沖繩の海に生息する魚たちを前に、子どもたちが食い入るように観察する姿が見受けられました。そのほか、美ら島自然学校が取

り組んでいる地元小学校と連携した学習活動の様子や、嘉陽小学校時代の風景を紹介する写真パネル展では、訪れた卒業生が当時を懐かしむ姿が見られ、地域の皆さまにも喜んでいただけました。さらに嘉陽区青年会による地域の農作物を使った軽食や民具の販売も多くの方々にご利用いただけました。

2015年に美ら島自然学校を開校して以来、初めての大きなイベントとなりましたが、名護市の安部区、嘉陽区の方々や連携を図り、イベントを作りあげた結果、地域の方々のほか、沖縄県内外から150名を超える多くの方々にお越しいただくことができました。また、マスコミ3社からも取材していただき、地域の自然や魅力について、発信することが出来ました。

美ら島自然学校では、これからも地域の自然環境・文化等をテーマとした学習会やイベントの企画、地域行事や民泊事業などへの協力を通じ、地域と密着した取り組みを行ってまいります。
(木野沙央里)



活魚車を使用した「小さな水族館 ～海の生き物～」



こども凧 カーブヤーづくり体験

海洋文化コラム Vol.5

～「仮面・仮装の来訪神」～

琉球弧※の島々では、夏になると神や祖先の霊が「もう一つの世界」から現世にやってくるという祭りが多く行われます。旧暦七月の盆もその一つです。沖繩で「もう一つの世界」と言う海の彼方の「ニライカナイ」と連想する人もいるのではないのでしょうか。周囲を海に囲まれた沖繩らしい世界観です。

民俗学では「もう一つの世界」から現れる神霊を「来訪神」と呼びます。来訪神は定期的に人々の前に現れて災厄を祓い、戒めを与え、豊かさや幸福を授けて「もう一つの世界」へ帰ります。来訪神は、しばしば仮面を着けて植物の葉や小枝で仮装した姿で登場します。

あえて異様な姿にみせることで、人間を超越した存在であることを表現していると言われ、人々はそうした神を畏れ

るとともに懐かしさを込めて迎え、送り帰します。こうした仮面・仮装の来訪神は、沖繩では宮古島のパーントウがよく知られていますが沖繩本島の名護市安部では豊年祭の時に「ウニホーガナシ」という来訪神が現れ、集落内を練り歩いて人々の幸福と繁栄を祈願します。現在の仮面は三代目で、どこか可愛くも見えますが、戦前はもっと恐ろしい形相をし、全身にクバの葉やシユロの皮をまとっていたそうです。

こうした仮面・仮装の来訪神は、パプアニューギニアなど太平洋の島々にも存在しています。互いに遠く離れた地域に、同じような姿の神が現れる祭りがあつたのです。(板井英伸)

※九州の南から台湾へ弧状に連なる島列、南西諸島弧。



名護市安部の「ウニホーガナシ」(2017年撮影)



戦前の「ウニホーガナシ」(鳥袋源七「山原の土俗」より)



パプアニューギニアの「トンポアン」(海洋博公園 海洋文化館展示資料)

手ぬぎ

vol. 2

うらなりの

琉球王国時代から現代へ受け継がれてきた手ぬぎ、がつくり出す伝統工芸の魅力にせまります。

沖繩の染織—華やかな紅型—

【臙型】



①



模様拡大



②



⑤

華やかな色調の「紅型」。最近ではかりゆしウェア等とその意匠が継承されていることから、沖繩をイメージする方も多いのではないのでしょうか。

紅型の染め方には、大きく2つの技法があります。1つ目は「型染め」といい、主に衣裳の製作に用いられる技法です。柿渋を和紙3枚に塗って貼り合わせて固めた渋紙に、模様を彫って紅型の型紙を作ります。次に、布の上に型紙を置いて防染の糊を引き、その後、糊を引いていない部分に、筆で顔料や染料を差していきます。

「型染め」には型紙を上下左右に反復させた模様や、サイズの異なる型紙を組合せた模様、そのほか型紙で模様を描いた上に、さらに別種類の型紙を置いて模様を描いた「臙型」という技法もあります。

2つ目は「筒描き」といい、墨で下描きした上に筒袋に入れた糊を手握りフリーハンドで模様を描いていきます。こちらは主に風呂敷に用いられ、緩やか、かつ伸びやかに描かれた曲線が、華やかで自由な印象を与えます。フリーハンドで描かれるため、作者の技量やセンスが模様に表れ、一点物の貴重さがあります。

どちらの染め方にもそれぞれの特徴や魅力があります。「紅型」のお気に入りの模様や色合いを探してみたいいかがでしょうか。
(安里成哉)

「筒描き」の作品制作のようす。防染糊で直接模様を描いた後(写真③)、顔料で色を差す(写真④)。風呂敷や旗、幕などは巾の大きなものに用いられることが多い(写真⑤)。写真協力:城間びんがた工房(写真①、③、④、⑤)

「臙型」の作品制作のようす。(写真①)。臙型は着物全体の地模様と、その上に小模様を重ねたデザインが特徴(写真②)。「芋麻桃色地梅楓松鳥波菱繫文様紅型袷衣裳」※沖繩美ら島財団所蔵/復元品

公園の景観をつくるために 欠かせない、植物管理の技術



熱帯・亜熱帯都市緑化植物園の街路樹見本区。ガジュマル、ベンガルボダイジュなど、台風や潮被害に強い高木類が植栽展示されている。

初心者から専門家まで 幅広く緑化を推進する

中央ゲートから海洋博公園に入る
と、花と緑に彩られた噴水広場のま
わりに伊江島をのぞむ景色が広がる。海
との一体感を大切にした景観デザイ
ンは、海洋博公園のシンボルだ。

「私たちも年間を通して花のある風
景を演出できるように、バックヤード
で常に植物を育てていますが、海から
近いので潮風はありますし、夏は台
風、冬は季節風という、花にとっては
厳しい環境なんです。特に沖縄は真
夏に咲く花が少ないので、夏場に咲く
樹種の選定には気を使います」

と話すのは、国営公園管理部植物管
理チームの島袋林博サプリーダー。熱
帯ドリームセンターから水のプロム
ナードに向かう園路の途中にある展
望台などから、海洋博公園を見ると、
もともとの自然を生かした既存林と、
公園として整備しているエリアに分
かれています。

「既存林は主に斜面や海岸線に広
がっていて、ヤシガニやコゲラ、希少
種のフタオチヨウ、絶滅危惧種のクロ
イワトカゲモドキなどの生息が確認
されています。環境保全のためになる
べく薬剤は散布せず、自然に近い状態
にしています。コゲラには営巣のため

に枯れ木が必要なので、枝の落下
や倒木の危険性がない範囲で、枯
れ木もあえて残すんですよ」

公園として整備されている地区
でも、マツクイムシなどの害虫や、
寿命で樹木が枯れることはある。

「沖縄県内で唯一のガンマー線
腐朽診断機で、木の中に空洞があ
るかどうかを診断します。ナンヨ
ウスギなど、外見は元気でも中が
スカスカになってきている例もあつ
て、場合によっては切り倒す必要
はあります。樹木医の職員と協議
しながら、リスト化して経過観察
をしています」

おきなわ郷土村の隣にあるおも
る植物園には、琉球の古謡集『おも
るさうし』に登場する植物が23種
類植えられている。植物によって
適した生育条件が異なるため、酸
性土壌を好む植物には酸性の土を
入れた鉢植えで育成するなど細か
い工夫がこらされている。

海洋博公園の南側には、熱帯・
亜熱帯都市緑化植物園がある。核
となるのは、亜熱帯地域の都市緑
化に有望とされる400種類以上
の植物を植栽展示している「植物



- ①伊江島をのぞむ噴水広場。
- ②2004年頃から始めた、立体造形花壇も来園者に好評だ。特に沖縄の生き物をかたどったモザイクカルチャーは人気。ペンタス、マツバボタンなど、なるべく潮風に強い品種を選んでいる。
- ③写真手前が既存林。生き物の多い既存林は自然観察の場にもなっている。
- ④非破壊検査機一種、ガンマー線腐朽診断機。
- ⑤「おもろ植物園」。個々の植物は本誌裏表紙でも紹介している。
- ⑥おもろ植物園のシマミサオノキ。鉢植えを埋めるという手法で展示し、木製チップで根元を覆って鉢植えの違和感をカバー。
- ⑦国営公園管理部植物管理チームの島袋林博サプリーダー
- ⑧公園や道路などの緑化に利用される地被植物を集めた地被植物見本区。
- ⑨樹木剪定講習会。沖縄で植栽されている樹木に関する基礎的な知識、剪定方法、樹形の作り方、剪定後の樹木の再生方法についてなどを、デモンストレーションをまじえて学ぶ。



見本区」だ。耐潮風植物の見本区、地被
植物見本区、酸性植物見本区、ハーブ
園などがあり、都市緑化・造園関係者
には生きた教科書となっている。一般
の方向けにもグラウンドゴルフ場が
整備され、入口案内所には、花と緑に
ついて気軽に相談できるみどりの相
談コーナーも設置している。

造園業関係者を対象にした樹木剪
定講習会も好評だ。街路樹や公園の
樹木は、美観と安全管理の両面から
適切な剪定が必要。沖縄美ら島財団
は造園CPD※協議会の構成団体
で、こうした講習会も積極的にに行
い、毎年9月には亜熱帯都市緑化事

例発表会も開催している。

「造園関係者に向けたプログラ
ム以外にも一般の方に向けた啓発
活動も行っており、一般向けには
毎年10月の都市緑化月間に苗木
の無料配布もしているんですよ。
ご来園のお客さまからは『園内に
樹名板を取り付けてほしい』とい
う要望をよくいただきます。これ
からは樹木の名前だけでなく、例
えばQRコードをつけて植物の解
説を見られるようにするとわか
思っています」

(文いいうえちず)

※CPDとは Continuing Professional Development (継続的専門能力開発・継続教育) の略称で、造園CPDとは公益社団法人日本造園学会が知識や技術技能の向上を目指す努力を支援し、第三者証明を行う制度。単位制としており、学会が認定した講習会などに参加するとポイントがもらえる仕組み。CPDポイントがあれば技術者の自己研鑽が評価され、公共工事や公園管理運営士資格の更新にも有利。

まだまだわからないことが多いという人獣共通感染症。文字通り、ヒトと動物の間に共通する感染症で、中には感染すると健常者でも死に至ることや、一生治らない高度病原性のものであるという。国立大学法人琉球大学農学部(以下、琉球大学)の佐野文子教授は、その中でも特に真菌による小型鯨類の人獣共通感染症を専門とされ、沖縄美ら島財団(以下、財団)総合研究センター動物研究室との共同研究も多い。フットワーク軽く研究するために琉球大学へ来たと言語の佐野教授に、沖縄での研究について話を聞いた。

国立大学法人琉球大学
農学部 亜熱帯地域農学科
動物生産科学分野
家畜衛生学講座 教授
佐野 文子 さの あやこ



佐野先生はイルカやクジラなど小型鯨類の人獣共通感染症を研究されているそうですね。その中でもどんな病気がご専門ですか？

「佐野先生はイルカやクジラなど小型鯨類の人獣共通感染症を研究されているそうですね。その中でもどんな病気がご専門ですか？」

「ボーダーレス化が進んで、ヒトやモノの往来が昔と比べて盛んになった結果、地球が狭くなったということでしょうか。」



オキゴンドウの呼吸検査

佐野「人獣共通感染症から見ていると、人の往来が病気を広げるといふことは言えますね。人類の歴史は戦争の歴史でもあります。第二次世界大戦以前は馬が移動手段として使われていました。13世紀にはモンゴル帝国軍がヨーロッパまで馬に乗って遠征しているわけです。元々はウマの病気だったヒストプラズマ症(Histoplasmosis)が、こうした

軍馬の往来によって世界に広がったと考えられます。日本でも江戸時代からウマのヒストプラズマが出ています。また、海外渡航歴のないヒトやイヌがヒストプラズマ症に感染した症例が報告されていますが、その原因菌の遺伝子型が、戦前のウマが持っていたヒストプラズマ症の原因菌と類似していることがわかりました。戦前まで、日本でも荷車を引くウマや軍馬がたくさんいて、街道を中心に行き交っていました。ウマはフンを落としますから、ヒストプラズマ症が街道沿いに広がっていったと考えられます。これら一連の研究に関しては、すでに論文で発表しております。しかしながら、ヨナグニウマなど沖縄の在来種からは、ヒストプラズマは出ていないですよ」

「感染症と歴史には、興味深い相関関係があるんですね。」

佐野「私の研究室には世界史地図が置いてあって、学生たちにもそれを見せながら説明しています」

「先生は7年前から琉球大学でご研究をされていますが、それ以前は国立大学法人千葉大学(以下、千葉大学)だったそうですね？」

佐野「はい。私は、2002年から

「佐野先生はイルカやクジラなど小型鯨類の人獣共通感染症を研究されているそうですね。その中でもどんな病気がご専門ですか？」

「佐野先生はイルカやクジラなど小型鯨類の人獣共通感染症を研究されているそうですね。その中でもどんな病気がご専門ですか？」

「感染症と歴史には、興味深い相関関係があるんですね。」

「感染症と歴史には、興味深い相関関係があるんですね。」

「先生は7年前から琉球大学でご研究をされていますが、それ以前は国立大学法人千葉大学(以下、千葉大学)だったそうですね？」

佐野「はい。私は、2002年から

の研究テーマである高度病原性真菌症の一種、クジラ型パラコクシジオイデス症(Paracoccidioidomycosis cuti)は、慢性難治性の皮膚病で、中南米、それも大西洋地域に多く症例が報告されています」

「ヒトにも伝染するんですね？」

佐野「イルカからヒトに伝染することがある病気です。タッチセラピーなどのドルフィンプログラムでこの病気にかかったという事故は世界的でも例がありませんのでご安心ください。とはいえ、これに限らず、人獣共通感染症を防ぐには、どんな動物でも触れた後は、必ず手洗いをしたいですね」と言います」

「風邪やインフルエンザなどの身近な感染症でも、不特定多数の人が集まる場に出た後は予防のための手洗いが大切ですね。」

あるかと思えます。私はブラジルで2年半ほど研究した経験があります。帰国後、2005年にブラジル時代の同僚だった研究者が沖縄まで来たので、一緒に沖縄美ら海水族館へ行って植田先生にお会いしたんですよ。当時、まだ日本ではクジラ型パラコクシジオイデス症の症例は発見されていなかったんですが、そのブラジルの研究者が『七つの海は一つだ。アジア地域でも症例はあるはずだから、網を張っていたらそのうち発見できるはず』と言いましたね、それで網をはっていたら、その5年後、本当に第一号の症例が出ました」

「地球の裏側の病気が日本に？」

佐野「日本国内では2010年から現在まで、4例が報告されています。いずれも沖縄県外での症例でしたが、1例目から総合研究センター動物研究室の植田啓一室長と共同研究をやりたい!と希望して、実際に4例とも共同で論文を出しました。以前は中南米特有の病気だと思われていましたが、ヒトへの感染例は地中海沿岸でも見つかっていて、病気の概念そのものが変わってきていると感じますね」

海洋博公園・首里城公園にて ハラル対応メニューを 始めました！

2018年7月1日より、海洋博公園及び首里城公園にて、ハラル対応メニューの提供を始めました。



今後増加が期待されているムスリムのお客様さまや近年お問合わせの多いベジタリアンのお客様さまにも対応しております。

- 海洋博公園**
トロピカルフルーツカフェ「スクール」
(熱帯ドリームセンター内)
- 首里城公園**
「レストラン首里杜」(首里杜館内)



・Vegetable Curryセット 950円(消費税込)



・島豆腐のマーボーセット 950円(消費税込)

平成30年度 沖縄美ら島財団助成 採用事業が決定

沖縄美ら島財団では、平成20年度より亜熱帯性動植物や沖縄の歴史文化等に関する調査研究・技術開発および普及啓発活動を行う個人、団体の皆様に対して、研究活動費の助成を行っています。

平成30年度は38件と多くの応募をいただき、厳選なる審査の結果、5件が採択されました。各採択事業関係者の皆様のご活躍を祈念するとともに、今後も本事業による活動助成を展開してまいります。

なお、本助成事業の成果については、事業終了後、順次ホームページ等で公開する予定です。



対象者	対象者
北山 知代 (きたやま ともよ) 特定非営利活動法人 エバーラスティング・ネイチャー 小笠原事業所 調査研究員・獣医師	千木良 芳範 (ちぎら よしのり) 宜野湾市立博物館 館長
富永 篤 (とみなが あつし) 琉球大学 教育学部 准教授	平良 淳誠 (たいら じゅんせい) 国立沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科 教授
藤田 励夫 (ふじた れいお) 文化庁 文化財部美術学芸課 主任文化財調査官	

夏休み子ども

自由研究に出展

2018年8月4日、5日の2日間、沖縄コンベンションセンターで開催された「夏休み子ども自由研究」へブース出展し、沖縄の自然環境や歴史文化についての興味喚起、普及啓発とともに沖縄美ら島財団の管理運営施設のPRを行いました。

ブースでは、海生生物や亜熱帯性植物、首里城や海洋文化等に関する解説パネル・標本展示を実施しました。特にウミガメの甲羅や、オオニバスの葉など、普段近くで見られる機会が少ない標本は人気が高く、職員からの説明に熱心に聞き入る来場者の表情が印象的でした。

会場全体の来場者数は、約3万2千人にのぼり、多くの親子連れが訪れた中、管理運営施設の活動内容について、広くPRすることが出来ました。

今後も、沖縄の自然環境や歴史文化についての普及啓発や研究成果を発信するとともに、管理運営施設のPRや利用促進に努力してまいります。



ウミガメの甲羅を観察



ペーパークラフト作り体験の様子

首里城 国王・王妃

県外でPRを実施

2018年6月に愛知県名古屋市「イオンモール名古屋茶屋」、7月に埼玉県越谷市「イオンレイクタウン」において開催されたイオン「沖縄フェア」にて平成29年度の首里城 国王・王妃とともに、沖縄美ら島財団の管理運営施設のPRを行いました。

会場にはイオン来店者や沖縄ファンの方々が集い、イオンモール名古屋茶屋では約12万人、イオンレイクタウンでは約42万人の方が来場しました。

ステージPRでは、海洋博公園・沖縄美ら海水族館・首里城公園での夏休みイベント告知やクイズ大会を行い、管理運営施設の魅力・楽しみ方についてPRを行いました。



PRステージの様子



練り歩きの様子

他にも、モニターでのPV放映や、国王・王妃による施設内練り歩きも実施しました。普段あまり見慣れない国王・王妃のきらびやかで独特な雰囲気や衣装は、多くのお客様から注目を集めました。

今後も県外の方々へ向けた、財団管理運営施設の魅力を発信し、利用促進を図ってまいります。

夏レタスを収穫！

小学校の空き教室を利用した「植物工場」試験開始

総合研究センター植物研究室では、本部町及び町立上本部小学校との連携事業として、同小学校の空き教室を利用したレタス栽培試験を行っています。この試みは、国内でも数例しかない珍しい取り組みです。

レタスは気温が高くなると栽培が困難になるため、本施設ではLEDで日照時間をコントロールし、ファンで風を送り、土を使わない「水耕栽培」という方法をとることで涼しい環境を作り、夏場のレタス生産を可能にしました。

2018年9月3日には本部町と町立上本部小学校の関係者を招待し、施設の見学会と収穫・試食会を開催しました。参加者からは、新鮮なレタスの食感と味の感想や、栽培コスト、空き教室の利用などについて多くのご意見をいただきました。また、本事業はマスコミ各社からも取材いただき注目されています。

将来的には、空き教室の有効活用を進めることで事業を拡大し、地元雇用の創出、地元の給食用材料の提供などを目指してまいります。



植物工場の見学会の様子



レタス栽培の様子

JTA丸川社長のインタビューでは、社員一人一人の自由な発想と熱い想いが一つになり、形となった「ジンベエジェット」。その想いをひしひしと感じた貴重なお時間でした。ジンベエジェットは「うちなーの翼」で今日も空の旅に出ることを思います。
(編集事務局 AM)

おもろさうしの

植物

其の十四

琉球王国第4代尚清王代に首里王府によって編纂された歌謡集「おもろさうし」に登場する植物の紹介コーナー。
※ 海洋博公園内おもろ植物園で見ることができます。

〔さくら〕 (ヒカンザクラ)

一 西嶽の さくらが 咲く様に

君し 撓て なよら

又 東嶽に 群咲き遣り 咲く様に

君 撓て なよら

又 嶽加那志 綾日傘

差しよわちへ

又 杜加那志 車傘

差しよわちへ

〔第一四卷九八九〕



おもろ名 さくら
和名 ヒカンザクラ
科名バラ科
方言名 サクラ

一口メモ

別名「カンヒザクラ」ともよばれる。落葉高木で高さ10メートル前後に育つ。台湾、中国南部が原産地で、日本では九州南部や伊豆、熱海でも見ることが出来る。花径は1センチ程度で、釣鐘状に開くのが特徴。開花期は1〜2月で、日本で一番早いサクラの開花として、沖縄本島各地で桜まつりが催され、沖縄では最も一般的なサクラとして親しまれている。種から増えるため、花色や花形に変化があって品種登録された個体もある。
鑑賞用として、庭木の他、街路樹や公園樹としても利用され、材として彫刻や装飾資材などに、また樹皮は薬用にも利用される。

〔解説〕
沖縄の桜はカンヒザクラである。桃色の花が一月下旬から二月にかけて開花する。

西嶽（拝所名）の桜が咲いているように、君志神女は桜に調和し、しなやかに美しく踊ろう。東嶽に桜が群咲きしているように、君志神女は桜に調和し、しなやかに美しく踊ろう。

嶽加那志様（御嶽の神）は、美しい日傘を差し給いてごらんになつておられることよ。杜加那志様は、車傘（軍の上に立てた絹張りの傘）の下でごらんになつておられることよ。

綾日傘、車傘は、神にかかりのある時だとか、国王がお出ましになる時に使われた。

「たけがなし」「もりがなし」は、嶽、杜の神様。実際には神女が神に成り変わる。

西嶽、東嶽の桜が美しく咲いているように神女が桜のように美しく踊っている。嶽、杜の神様が美しい日傘や車傘を差しご覧になつておられるようすを謡っているオモロである。

※ 出典:「おもろさうしの植物」 発行:(財)海洋博覧会記念公園管理財団(現・(一財)沖縄美ら島財団)

沖縄美ら島財団



沖縄美ら島財団
総合研究センター



海洋博公園



首里城公園



美ら島
自然学校



当財団では、これまでに蓄積してきたノウハウを活かし、普及啓発、環境保全、地域貢献等の活動に取り組んでいます。

美らなる島の輝きを御万人へ

沖縄美ら海水族館



沖縄県立
名護青少年の家



なご
アグリパーク



沖縄県立博物館・
美術館(おきみゅー)



2018年10月発行

一般財団法人 沖縄美ら島財団広報誌

企画・編集・発行

一般財団法人

沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888

TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

制作・印刷/株式会社 東洋企画印刷

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-21-5



この印刷物の情報は個人情報保護マネジメントシステム(プライバシーマーク)を適用しています。
株式会社 東洋企画印刷 プライバシーマーク (24000430)

季刊誌 南ぬ風 秋号 vol.49
2018.10~12

ISSN 2189-4140